



柿崎区地域協議会だより



発行：柿崎区地域協議会 事務局：柿崎区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL025-536-2211

まちづくりフォーラムを開催 ～女子サッカーチーム FC 越後妻有の取組～

2月19日、柿崎コミュニティプラザ4階ホールにおいて、柿崎区地域協議会主催の「まちづくりフォーラム」を開催しました。フォーラムでは、柿崎区地域協議会の活動報告と令和4年度地域活動支援事業の成果発表を行い、続いて講演会を開催しました。

最初に、地域協議会の活動報告を行い、「柿崎空き家活かそうプロジェクト」が2年半の活動状況の説明と、情報の収集や情報の発信、拠点窓口の整備など今後の取組内容を報告しました。続いて、「みんなの保育園を考える会」が1年間の活動経過を説明しました。視察や保護者会役員との意見交換、アンケート調査結果を基に今後の柿崎区内の保育園のあり方を検討した結果、「4保育園を統合し新築」の内容で意見書をまとめ、市へ提出することとしました。次に、「柿崎農業の未来を考える会」「手しごと・手づくり柿崎・上越作品展実行委員会」「柿崎時代夏まつり」「下黒川地区夏まつり」実行委員会」の3団体が地域

活動支援事業の成果発表を行いました。今年度で地域活動支援事業が終了するため、今回が最後の成果発表となりましたが、今後も活動を継続していくとの思いが強く感じられました。

後半の講演会では、NPO法人越後妻有里山協働機構事務局長の原蜜さん、FC越後妻有の山下由衣選手を講師に迎え、「大地の芸術祭とFC越後妻有」と題してお話していただきました。原さんは、「大地の芸術祭は、今では50万人の人数がありますが、地域の反対の中で始めましたので、地元の方々の理解が得られなかった」と当時を振り返りました。また、棚田の保全是、地域の皆さんが一生懸命に農業を営まれている姿に心を動かされ、サポーター組織、田んぼオーナー制度を立ち上げ、現在、東京ドーム5個分の広さの棚田を耕作しています。

農業の担い手不足の解消と、選手生命の短いサッカー選手のセカンドキャリア形成のため、当法人が平成27年に女子サッカーチ

ームを創設しました。今年度、北信越2部リーグで優勝し、来シーズンには1部へ昇格します。

選手は、全国から当地域に移住し、サッカー選手として日々の練習に打ち込みながら、棚田の保全や芸術祭の運営など、地域を支える貴重な担い手となっています。山下選手は、「おじいちゃん、おばあちゃん、笑顔を作り出す活動を通じて、WE(ウィー)リーグ参入を目指したい」と力強く締めくくりました。(委員 武田 正教)



NPO 法人越後妻有里山協働機構事務局長の原蜜さんと FC 越後妻有の山下由衣選手。サッカーを通じて地域を支えています

子どもたちの保育環境を整えるため 4 保育園を統合し新築



上下浜保育園は昭和 48 年度に新築。築 49 年が経過し、施設の老朽化が進んでいます

施設の老朽化や園児数減少の問題。そして、核家族化や共働きによる家庭環境の変化、勤務体系の複雑化による保育ニーズの多様化。さらに、0 歳児の受け入れができない保育園や開園時間が異なる保育園があり、サービスにも各保育園で差が生じているなど、区内の保育園には多くの課題があります。そこで、私たちは保育施設やサービスのあり方など、子どもたちにとって望ましい保育環境の整備と保育サービスの充実を一番に考え、4 保育園の

将来的なあり方について協議・検討してきました。

まずは現状を改めて確認するため、区内 4 保育園を視察しました。区内の保育園は、園舎から海が見えたり、松林に囲まれていたり、園庭が広く山が近かったり自然環境が良く、過ごしやすい環境でした。しかし、4 保育園とも外壁や床の傷みが激しく、ホールや保育室、廊下、天井など修繕が行われており、その他にも修繕が必要な箇所がありました。またトイレは、和式から洋式への取り換えが進められていましたが、まだ和式トイレが残っている保育園もあり、和式トイレを初めて目にする園児も多く、大切なトイレトレーニングに支障を来す恐れがありました。そして、園児数が減少していることで 4 保育園とも空き部屋が多く、保育室以外に使用されていたり、沐浴室（0 歳児のお風呂）がなく、0 歳児の受け入れができない保育園がありました。

区内の保育園視察後、市内でも新しいなおえつ保育園も視察しました。区内の園児数となおえつ保育園の園児数はほぼ同数でした。なおえつ保育園の開園時間は区内の保育園よりも長く、

民間事業所が運営していることから、土・日曜日や祝日も平日同様の開園時間で区内の保育園と大きな差がありました。通園に関しては、区内の保育園は全て通園バスがあり、なおえつ保育園にはありませんでした。保護者が通勤前後に送迎しています。一時預かりは、区内が柿崎第一保育園のみ、なおえつ保育園は通っていない家庭であっても受け入れています。

今まで区内保育園の対応策として、4 保育園を修繕し継続、小学校との併設など、さまざまな方法を検討してきましたが、保育園を修繕し継続するには、園児数が少ないことや予算の関係もあり、難しいという結論に至りました。そして、小学校との併設も管理下が違うことから急を要する柿崎区では難しいと判断しました。これまで 4 保育園統合も思うように進みませんでした。今回なおえつ保育園を視察した結果、区内の園児数とほぼ同数であることや、多様化しているニーズに対応していることから、なおえつ保育園を参考に統合に向けて動き出しました。

（みんなの保育園を考える会）

委員長 小山 慶

意見交換とアンケート調査で保護者の考え、思いを知る

●保護者会役員との意見交換結果

昨年 11 月 19 日、区内 4 保育園の保護者会役員の皆さんとの懇談会を実施し、現状を説明した後、意見交換を行いました。さまざまな意見をいただきました。

□統合に向けた意見

- 病児・病後児保育の充実 ○保育時間の拡大 ○休日保育の実施（日曜日、祝日） ○通園バスの利便性向上 ○現在は保育園ごとにサービスに差があるので平等にするべき

□統合を不安視する声

- 統合となるとベテランの保育士が減る ○どこに保育園ができるか心配 ○統合には反対でないが、民間経営には抵抗がある ○地元の近くに保育園があることが本来望ましい
 - 保育サービス以外で統合に向けた意見
 - 体力が衰えている子が多く、自然を感じられて外で思い切り遊べる保育園が良い ○新しい保育園にするのであれば、他の保育園にはない柿崎の特色がある保育園にしてほしい
- 全体的に統合が良いというより、統合がこれらの課題を解決する最善の方法であるとの結論に至りました。

（委員長 小山 慶）

●保育園のあり方に関するアンケート調査結果

保護者会役員の皆さんとの懇談会で「保育園のあり方に関するアンケート調査」を実施しました。

Q 説明、資料の内容は理解できたか

75%が「理解できた」、25%が「やや理解できた」と回答。全ての方から概ねご理解いただきました。

Q 保育園で最も必要なサービスは何か

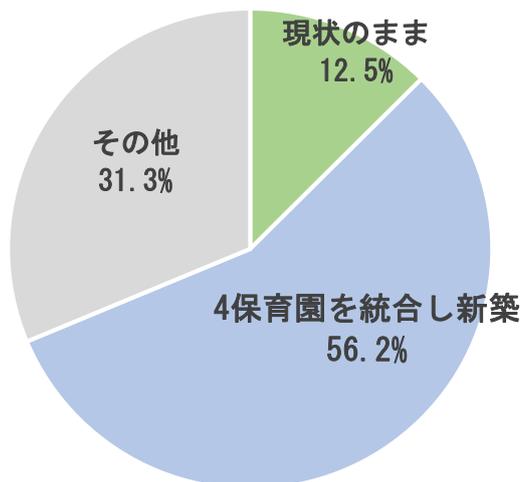
順位をつけて 3 つ回答していただきました。最も回答が多かったサービスは「保育時間の拡大（早朝・延長）」でした。その他はバラつきがありました。

■最も必要な保育サービス

（単位：人）

サービスの内容	回答者数
保育時間の拡大	16 人
病児・病後児保育の実施	10 人
保育士の配置の充実	8 人
土曜日の開園時間延長	7 人
休日保育の実施	6 人
通園バスの利便性向上	5 人
0 歳児保育の実施	5 人

■保育園のあり方の考え



Q 区内保育園のあり方をどう考えるか
3 つの選択肢の中から選んでいただきました。「現状のまま」が 12・5%、「4 保育園を統合し新築」が 56・2%、「その他」が 31・3%でした。その他に、「4 保育園をとりあえず 2 保育園に」「安心安全な保育園にしてほしい」といった意見がありました。

（委員長 小山 慶）

柿崎の宝を探し、地域活性化の方向性を作成

昨年 5 月、市長から地域活性化の議論を進めるため、各区地域協議会へ「地域活性化の方向性の作成」の依頼がありました。次のことを前提に、各区において特に重視したいこと、大切にしたいことを地域活性化の方向性として作成するものです。

- ・幅広い分野（地域資源・産業・観光・農業・自然・風土等）の中から、各区の個性や特性をいかすことで、地域の活性化につながるもの。

- ・地域の課題解消や現在の状態をさらに良くすることで、地域の活性化につながるもの。

「○○区□□□□という個性（強み、特性）をいかして、△△△△△△△△△△を基本形に方向性を作成し、6つの構成要素も検討しています。柿崎区地域協議会では、昨年 9 月に「地域活性化の方向性の作成検討会」をつくり、これまで 6 回の検討会を開催し、構成要素の整理やブレインストーミングを行い、柿崎区の宝は「米山」であることを確認しました。米山を核に、地域独自の予算へつながる内容とするために検討を進めています。

（地域活性化の方向性の作成検討会）
委員長 小出 祥世

柿崎区地域協議会の主なうごき(令和 5 年 1 月～令和 5 年 3 月)

開催月日	実施項目	開催月日	実施項目
1 月 17 日	第 11 回地域協議会	2 月 14 日	第 5 回地域活性化の方向性の作成検討会
1 月 17 日	第 3 回まちづくりフォーラム実行委員会	2 月 19 日	令和 4 年度まちづくりフォーラム
1 月 17 日	第 4 回地域活性化の方向性の作成検討会	2 月 27 日	第 26 回 柿崎空き家活かそうプロジェクト会議
1 月 17 日	第 7 回地域協議会だより編集委員会	2 月 28 日	第 8 回地域協議会だより編集委員会
1 月 23 日	第 13 回みんなの保育園を考える会会議	3 月 14 日	第 13 回地域協議会
2 月 1 日	第 25 回 柿崎空き家活かそうプロジェクト会議	3 月 14 日	第 6 回地域活性化の方向性の作成検討会
2 月 14 日	第 12 回地域協議会	3 月 27 日	第 27 回 柿崎空き家活かそうプロジェクト会議

【編集後記】

3 月の声と共に、春の景色が目を和ませてくれる今日この頃となりました。

新型コロナウイルス感染症も、5 月 8 日に「2 類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5 類相当」に移行することが決定し、今後私たちの生活はどのように変わっていくのか少し心配するところです。

柿崎区地域協議会では、2 月 19 日に「まちづくりフォーラム」を開催し、最後となる地域活動支援事業の活動報告及び地域協議会の個別案件の報告を行いました。参加いただいた皆様、関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

さて、我々地域協議会委員も残すところあと 1 年の任期となりました。期間中、市長の交代もあり、市政も大きく変化しています。いざれにせよ、残りの任期を「より良い柿崎」「より住み良い柿崎」を目指して頑張りたいと思っています。
(吉村 正)

編集委員長

編集委員

中村 誠
白井一夫 武田正教
蓑輪和彦 吉井一寛
吉村 正